

# 高知工科大学を対象とした世代間交流施設の実現可能性の検討

学籍番号 1141013 氏名 田所義基

高知工科大学工学部社会システム工学科 建設マネジメント研究室

近年、学生に対するコミュニケーション能力の低さを指摘する意見が挙げられている。これは、同世代との交流が盛んな一方、それに比例して、教職員や地域の方といった異世代の方々との交流機会が少ないことが要因の一つだと考えられる。さらに、本学においては、市街地から離れた郊外の立地条件であることから、近辺に飲食店が存在せず、気軽に学生と教職員が触れ合える場所が無いという問題点がある。本研究は、これらの問題解決を図るべく、本学の近隣に、学生と教職員や地域の方との交流促進を目指した世代間交流施設を導入することについての提案を行うものである。

**Key Words : Intergenerational Communication , IRR , Hands-on Learning**

## 1.大学における背景

### 1.1 異世代間コミュニケーションの現状

#### (1) 学生のコミュニケーション能力の低下

近年、我が国では、コミュニケーション能力の低い若者が増加傾向にあると言われている。これは、特に中・高等学校や大学等の教育機関において問題視されている。

また、実際に大学生を新入社員として迎える企業側の新卒採用者向けアンケートで、例年同様に、コミュニケーション能力が選考にあたって最も重視する項目となっているからも明らかである(図-1)。

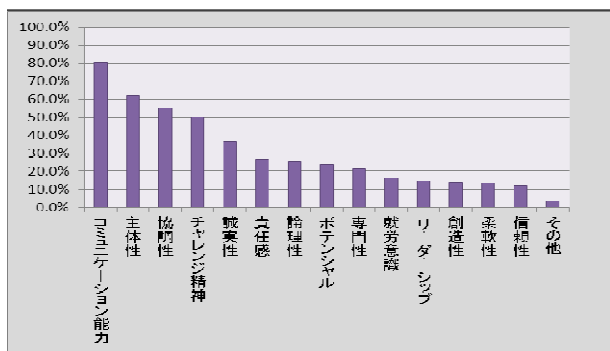


図-1 新卒採用者へのアンケート調査結果<sup>1)</sup>

#### (2) 異世代間の交流機会の減少

学生のコミュニケーション能力低下の要因の一つとして、若者世代の親族以外の異世代との交流機会が大幅に減少していることが考えられる。

本学内におけるアンケート調査の結果、普段の学生生活において、同級生や自分の年齢から2,3歳離れた先輩・後輩等といった同世代間の交流は、非常

に積極的に行われているのに対して、異世代間の積極的な交流は、同世代間の交流の1/5程度しか行われていない状況であることが分かった(図-2)。

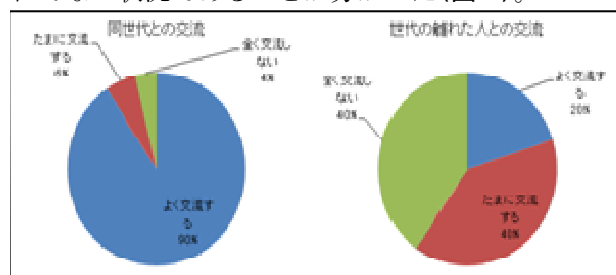


図-2 本学における学生の世代別交流割合

#### (3) 異世代交流の必要性

学生の視点で考えると、異世代との交流がそれほど無くても、同世代との交流が充実していれば、学生生活上において全く支障は無いと言える。

それでもなお、学生時代における異世代間の交流が必要とされるのは、社会に出て働くようになると、自分の周囲の環境が、同世代同士から異世代ばかりの集まりに急激に変化するためである。

若い世代の特徴として、普段の生活の中では、ほとんど目先の判断でしか行動を起こさず、価値観や嗜好の異なる世代の人との交流は面倒くさがる傾向にある。学生時代に同世代間の交流しか行っていないと、社会に出てからの交流環境の急激な変化に対応できなくなる問題が生じる。

従って、その問題を事前に解決しておくためにも、学生時代から親族以外の異世代との交流を積極的かつ頻繁に行っておく必要があると言える。<sup>2)</sup>

## 1.2 本学周辺の飲食店の有無

一般的に、集客が見込める大学の周辺には、飲食店街が存在し、積極的ではないにしろ、学生と教員が交流できる機会やきっかけは多い。

しかし、本学の位置は、山田の市街地から東方向に3,4km離れた郊外にあることから、本学周辺に飲食店がほとんど存在せず、気軽に学生と教員が交流できる場所が非常に少ないという現状がある(図-3)。

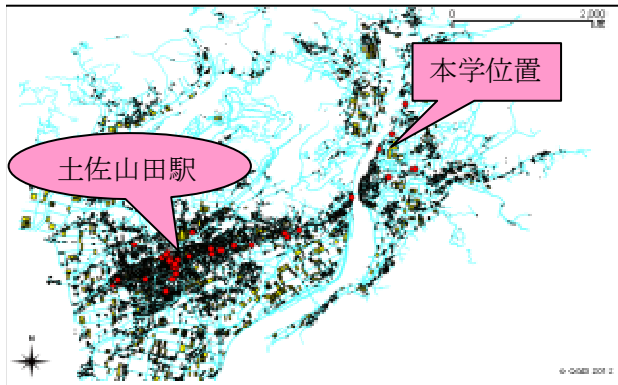


図-3 山田付近の飲食店

## 2.目的

以上のことを踏まえて、学生が社会に出てからの交流環境の変化に対応できなくなる問題を解決することを目的として、学生にとって身近な異世代である教職員や地域の方々との積極的な交流が促進されるような「世代間交流施設」を本学の近隣に設置することを提案する。

## 3.世代間交流のコンセプト

一般的に「世代間交流」という言葉は、普段あまり接する機会の無い若者と高齢者が積極的に交流するためのきっかけ作りとして認識されている。

一方、本研究での「世代間交流」とは、その概念を拡大したものとして、本学の学生が、彼らにとって身近な異世代である教職員や本学周辺の地域の方々と積極的かつ頻繁に交流することを指している。

## 4.世代間交流施設導入による効果

以下に、本学の近隣に世代間交流施設を導入することによって得られる効果を列挙する。

### ①教育効果

価値観や嗜好の異なる多種多様な世代の人々との交流を通じて、自分の知識の幅を広めることに繋がり、また、社会的な問題に関心を持てるようになる。

### ②ストレス解消効果

学生にとっては勉学や研究、教職員にとっては仕事の疲れが取れるということで、明日も頑張ろうという意欲増進に繋がると考えられる。

### ③出会い効果

世代間交流施設を利用することで、今まで全く面識の無かった異世代との人脈が増やせることにより、同世代だけの交流では得られない貴重な情報や権利等を得られる可能性が高いと思われる。

### ④近距離にあることによる効果

近くに飲酒できる場所があれば、サークルや研究室等の団体で行く際に、計画を立てなくても気軽に行ける。また、良いアイデアが生まれた時に、すぐ本学に戻って記録なり実践できるという利点がある。

## 5.他大学における参考事例<sup>3)</sup>

— 九州大学 新伊都キャンパス —

《九大あかでみっくらんたん》

### ■大学内に出来たきっかけ

キャンパスの周辺に飲み屋がほとんど無く、学生・職員からの要望があったから

### ■設置目的

学生及び職員、或いは地域住民の方々との交流の場として気軽に安心して集える憩いの場を提供するため

### ■運営主体

地元の酒造会社

### ■施設規模

面積：約60㎡、座席数：32席

### ■大学ならではの特徴

- ・晩酌セットが500円と価格設定が安い
- ・営業日が平日のみで土・日・祝日はやっていない
- ・ほとんどの電力を燃料電池で賄っている
- ・バスは閉店時間に合わせて最終便が出発する



図-4 施設正面部  
と料金プラン

## 6.本学における適用具体案

### 6.1 既往研究の活用

本研究で検討する世代間交流施設の具体像を考えるにあたって、高橋賢多氏(2005年)の卒業研究「世代間交流による地域の活性化に関する研究」<sup>4)</sup>の“世代間交流の活動可能性分析”のデータを参考とした。

これは、アンケートで若者と高齢者各々の異世代に対する要求項目と参加意識項目を回答してもらい、その結果を分析して、世代間交流を行える可能性の高い要素を抽出したものである(図-5)。

若者と高齢者がお互いに望む各項目をクロスチェックして抽出した項目の中から、世代間交流施設の中に設備・イベント要素として実現できそうな以下の項目を適用具体案に取り込む。

◎パソコン、インターネット ◎お酒 ◎ビリヤード ◎料理 ◎手芸(ペーパークラフト) ◎囲碁・将棋

図-5 世代間交流の活動可能性分析

## 6.2 世代間交流施設の用地確保

次に、世代間交流施設を導入するにあたって、施設の新規建設、或いは既存施設の有効活用のどちらかを選択しなければならない。

その検討を予想される収益や一般管理費、修繕費用といった必要経費の一部を双方同じ条件とした上で、各々の場合で初期投資額や課税の有無等の相違を考慮したキャッシュフローを算定して、内部利益率(IRR)を比較する手法によって行った。

### (1)施設を新規に建設する場合(表-1)

- 建物・設備の初期投資内訳
  - ・工事原費(建築、仕上、設備工事等費用)
  - ・室内スポーツ設備の費用 ・厨房設備の費用
- 収益の内訳
  - 客単価3000円で1日20人が約7ヶ月利用すると仮定
- 一般管理費の内訳
  - ・人件費 ・材料費 ・水道、光熱費
- メンテナンス費用:年間て初期投資の25%と仮定
- 固定資産税、都市計画税
  - 土地、建物等の課税評価額×税率(1.4%,0.3%)
- 法人税:事業収益×実効税率(41%)
- これらの仮定の元で、内部利益率(IRR) = **-6.0%**

表-1 施設の新規建設する際の損益計算表

年数	建物・設備の初期投資	収入	一般管理費	メンテナンス費用	固定資産税	都市計画税	法人税等	キャッシュフロー
0	-20.4							-20.39
1		12.6	-1.04	-0.44	-0.55	-0.11	0.00	1.10
2		12.6	-1.04	-0.44	-0.55	-0.11	0.00	1.12
3		12.6	-1.04	-0.44	-0.55	-0.11	0.00	1.13
4		12.6	-1.04	-0.44	-0.55	-0.11	0.00	1.14
5		12.6	-1.04	-0.44	-0.55	-0.11	0.00	1.15
6		12.6	-1.04	-0.44	-0.55	-0.11	0.00	1.15
7		12.6	-1.04	-0.44	-0.49	-0.10	0.00	1.09
8		12.6	-1.04	-0.44	-0.48	-0.10	0.00	1.08
9		12.6	-1.04	-0.44	-0.48	-0.10	0.00	1.08
10		12.6	-1.04	-0.44	-0.48	-0.10	0.00	1.04
11		12.6	-1.04	-0.44	-0.47	-0.10	0.00	1.03
12		12.6	-1.04	-0.44	-0.47	-0.10	0.00	1.02
13		12.6	-1.04	-0.44	-0.46	-0.10	0.00	1.02
14		12.6	-1.04	-0.44	-0.46	-0.10	0.00	1.02
15		12.6	-1.04	-0.44	-0.45	-0.10	0.00	1.02

IRR=-6%

### (2)既存施設を有効活用する場合(表-2)

- 建物・設備の初期投資内訳
  - ・室内スポーツ設備の費用 ・テレビとエアコン
- 賃料の内訳
  - 施設管理者(アクティブ二十一)へ支払う賃料  
毎月13万(年間156万円)+敷金39万
- 収益、一般管理費の内訳:(1)と同じ
- メンテナンス費用:(1)と同じ
- これらの仮定の元で、内部利益率(IRR) = **-2.0%**

表-2 既存施設の有効活用する際の損益計算表

年数	建物・設備の初期投資	収入	一般管理費	賃料等	メンテナンス費用	固定資産税	都市計画税	法人税等	キャッシュフロー
0	-1.67								-2.06
1		12.6	-1.04	-1.56	-0.44	0.00	0.00	-0.08	0.12
2		12.6	-1.04	-1.56	-0.44	0.00	0.00	-0.08	0.12
3		12.6	-1.04	-1.56	-0.44	0.00	0.00	-0.08	0.12
4		12.6	-1.04	-1.56	-0.44	0.00	0.00	-0.08	0.12
5		12.6	-1.04	-1.56	-0.44	0.00	0.00	-0.08	0.12
6		12.6	-1.04	-1.56	-0.44	0.00	0.00	-0.08	0.12
7		12.6	-1.04	-1.56	-0.44	0.00	0.00	-0.08	0.12
8		12.6	-1.04	-1.56	-0.44	0.00	0.00	-0.08	0.12
9		12.6	-1.04	-1.56	-0.44	0.00	0.00	-0.08	0.12
10		12.6	-1.04	-1.56	-0.44	0.00	0.00	-0.08	0.12
11		12.6	-1.04	-1.56	-0.44	0.00	0.00	-0.08	0.12
12		12.6	-1.04	-1.56	-0.44	0.00	0.00	-0.08	0.12
13		12.6	-1.04	-1.56	-0.44	0.00	0.00	-0.08	0.12
14		12.6	-1.04	-1.56	-0.44	0.00	0.00	-0.08	0.12
15		12.6	-1.04	-1.56	-0.44	0.00	0.00	-0.08	0.12

IRR=-2%

### (3)世代間交流施設の導入予定箇所

IRRによる比較の結果、既存施設を有効活用の方がコスト面で有利となることが分かったので、その方向で適用具体案を検討する。

また、世代間交流施設の場所については、今現在、学生・教職員向けの朝食提供以外に使用されていないオーバックという施設を活用する。

## 6.3 世代間交流施設の具体的概要案

以下に、自分で考えた本学における世代間交流施設の具体的な概要案を列挙する(図-6)。

- 場所:オーバック(土佐山田町宮ノ口88番14)
- 営業時間:18:00~23:00の5時間
- 定休日:日祝日、年末年始、大型連休(全体の7割)
- 収容可能人数:50人程度
- 施設利用料金:3000円/人(食事料金+2階利用料)(但し、学生と教員のグループ、或いは地域の方々が来店した場合は、3割引で料金を割引する)
- 地域交流要素:大学近辺で作られた規格外の農作物を用いた料理の提供および大学近辺あるいは高知の名産品の展示及び販売
- 設備:<1階>飲食スペース(テーブルと椅子)と厨房、おみやげコーナー、テレビとエアコン各1台 <2階>トイレ、従業員室、ビリヤード2台、卓球台1台、ダーツといった室内スポーツ設備、将棋・囲

碁・オセロ・チェスなどのボードゲームスペース、  
テレビとエアコン各1台

●イベント開催：ビンゴ大会やクイズ大会などのお  
楽しみ会の企画(利益が出た月のみ)

ペーパークラフト教室の開催(平日の昼間)

●従業員：本学の学生主体の運営→学生や地域の方  
等、料理人と接客スタッフの募集(時給900円程度)

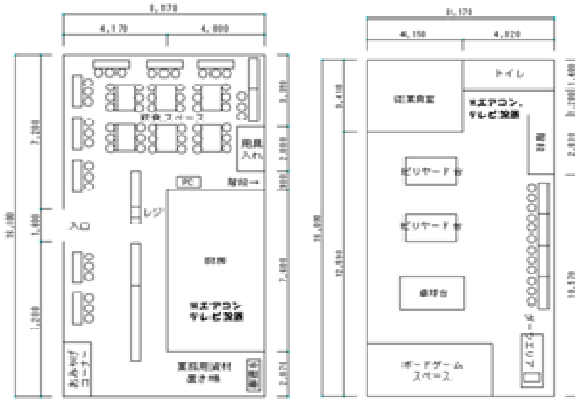


図-6 世代間交流施設の簡易図面(左:1階、右:2階)

## 7. 世代間交流施設の需要調査

本研究で提案する世代間交流施設の具体的な概要案  
に対して、異世代間交流の実態や世代間交流施設の  
利用需要を把握するために、本学所属の学生を対象  
としたアンケート調査を行った。その集計の結果、  
以下の回答が得られた(図-7、図-8)。

■学生回答数—社会システム工学科(建築・都市デザ  
イン専攻)学部3,4年または修士1,2年生:72名、マ  
ネジメント学科3,4年生:12名(不明:3名) 計87名

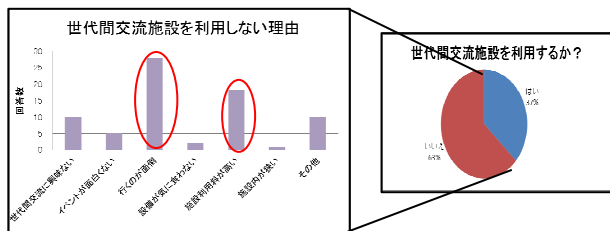


図-7 世代間交流施設の利用概要

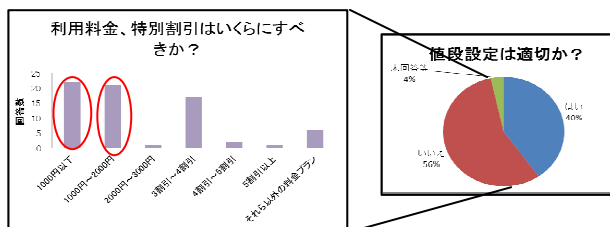


図-8 世代間交流施設の利用料金

アンケート結果から、学生の多数意見として、本  
学の近隣に世代間交流施設を設置するだけでは「施  
設利用料が高い」または「行くのが面倒くさい」と

いう理由から利用しない傾向が多いことが分かった。

ただ、「行くのが面倒くさい」という学生側の意識  
は、別の視点から考えると、こういった施設の必要  
性を表しているということもできる。

## 8. 結論

世代間交流施設を多くの学生に利用してもらうに  
あたって、2つの大きな問題点が浮上したが、これら  
の解決を図ることができれば、学生の施設利用割合  
は、過半数を超えることが予想される。

よって、その問題解決にあたり、学生の利用促進  
を目指した仕組みの構築を意識して、自分なりに考  
えた具体的概要案の一部改善策を以下に提示する。

### 8.1 施設利用料金システムの改善

アンケートでは、1000円以内、或いは1000~2000  
円の範囲まで下げたいという声が多かった。た  
だ、1000円以下は運営上厳しいので、1000円~2000  
円の間まで料金を下げるために、従業員の時給を下  
げたり、中古・譲り受け等を活用して、設備投資費  
用を減らすといった経費削減の工夫を行う。

また、アンケートに記入された意見を参考に、一  
律化された料金体系を廃止して、飲食料金と2階部分  
利用料を分けるといった配慮が必要であると感じた。

### 8.2 学生の施設利用促進策

異世代間とのコミュニケーション能力を身につけ  
るためには、価値観や嗜好の異なる様々な世代との  
交流を実際に体験することが不可欠である。

それを実現するために、本研究では、キャリアプ  
ランやセミナー等の単位認定科目の一環として、コ  
ミュニケーションの体験学習という形で、本学の教  
育プログラムに組み込むことを提案する。その授業  
の際に使用する施設として活用したいと考えている。

### 参考文献

- 経団連：新卒採用に関するアンケート調査結果  
<http://www.keidanren.or.jp/japanese/policy/2011/091.html>
- 異世代間コミュニケーション 若年者教育編  
<http://www.nextet.net/e-learning/50/feature/sp01-1.html>
- 九大広報 44号 28-31 ページ  
[http://www.kyushu-u.ac.jp/magazine/kyudai-koho/No.44/44\\_28.html](http://www.kyushu-u.ac.jp/magazine/kyudai-koho/No.44/44_28.html)
- 高橋賢多氏「世代間交流による地域の活性化に関  
する研究(高知工科大学 2005年度学部卒業)」